

第59回日本学連総会議事録

開催日 2013年(平成25年)10月12(土)
会場 富士宮市民体育館会議室(静岡県富士宮市)

【議題】

1. 議長選出
2. 昨年度、一昨年度決算報告、今年度中間報告
3. JOAとの関係について
4. インカレリレー特別措置について
5. インカレ実施規則第25条ウォーミングアップエリアについて
6. パンチングシステムに関する細則について
7. インカレスプリント実験大会について
8. 春インカレについて報告
9. 理事会報告
10. 技術委員会報告
11. 各部局活動報告
12. 各地区学連活動報告
13. 次回総会について

【出席者】

氏名	役職	学校名
河合利幸	会長	大阪大学卒
木村佳司	理事(JOA理事兼務)	山口大学卒
大西康平	技術委員会委員長	京都大学卒
山本淳史	幹事長	東京大学
新谷国隆	副幹事長	名古屋大学
平野大輔	事業部長	名古屋大学
高橋秀明	広報部長	金沢大学
山田晋太郎	事務局長	東京工業大学
杉村俊輔	普及部長	東北大学
平野弘幸	渉外部長	東北大学
山田陽子	会計	早稲田大学
渡仲祥太	会計監査	名古屋大学
野本圭介	会計監査	筑波大学
千葉聡美	北東学連幹事長	宮城学院女子大学
高嶋健伍	北信越学連幹事長	金沢大学
佐藤大樹	関東学連幹事長	東京工業大学
川上雅人	東海学連幹事長	名古屋大学
宇井賢	関西学連幹事長	京都大学

(敬称略)

【出席校】(28)

東北、北海道、宮城学院女子、岩手県立、福島、金沢、新潟、お茶の水女子、千葉、筑波、東京、立教、早稲田、実践女子、一橋、相模女子、東京工業、日本女子、津田塾、駿河台、横浜市立、十文字女子、静岡、名古屋、相山女学園、大阪、京都、奈良女子

【委任状】(5)

慶応義塾、東京農工、横浜国立、茨城、京都女子

【欠席校】(1)

電気通信

議事録作成：高橋 秀明(広報部長・金沢大)

第59回日本学連総会議事録

議事録作成: 高橋 秀明(広報)

発言者		発言内容など
(敬称略)	所属	
		幹事会開始: 14時32分
		1.議長選出 ●今回の総会の議長に小山達之(駿河台大)を選出した。
山田(陽) 大西 山田(陽) 山本 飯室 大西 山田(陽)	早稲田	2.昨年度・一昨年度決算報告、今年度中間報告 ●会計より、日本学連会計の昨年度・一昨年度の決算報告と今年度の中間報告があった。 資料配布 昨年度の決算報告と今年度の中間報告をする。小柳・前会計が昨年度の総会で一昨年度の決算報告をしていなかったため、これもあわせて今回私が代わりに報告する。 2012年に関東学連から67000円をもらっていないので、後で徴収する。また、賛助金については、賛助会に寄付をした賛助会員1人当たり1000円を、各地区学連へフードバックすることになっていたが、おとし・去年はそれがなされていなかった。その分はまとめて今年度フードバックする。また、ファミテックから1人1泊当たり100円をフィードバックしてもらっているお礼として、インカレのプログラムに広告を載せることになっているが、その広告費を支払っていなかった。これも今年支払う。 理事会活動費が急激に増えているが、何に使われたのか。 内訳は引き継いでいない(のでわからない)。 小柳・前会計(一昨年度・昨年度を担当)に決算報告を出してもらうことになっていたのだが、なかなかそれがもらえなかったため、実はまだ監査が入っていない状態である。(それらについては、)今のところのものを見せて質問を洗い出し、(総会後に)監査を通して、春の総会で承認を取りたい。今回は中間報告だけは予定通り行いたい。 毎年、技術委員会の予算は37万円だが、10何万円しか使われていない。なぜ、こんなに予算を取っているのか。 技術委員会には、学連合宿3万円×年4回、講習会1万円×年3回、インカレ・アドバイザー交通費10万円と委員会自体に5・6万円の予算がついている。ただ、最近、実際に使っているのは、ほぼ学連合宿のみになっていて、予算に対して使っている金額はだいぶ少ない。ただ、最近では少ないが、アドバイザーの住んでいるところから遠い場合は交通費がかさむので、予算はついている。 小柳・前会計に明細を出してもらうように頼み、春の総会で承認を取りたい。 次に今年度の中間報告を行う。加盟校のところが144400円となっているが、144000円である。今年は個人と加盟校それぞれの加盟金と賛助金が収入となっている。支出は、インカレミドル・リレーの貸付金150万円と幹事会の交通費と宿泊費であるが、幹事会の経費については第1回の分しか含まれていない。なお、地図代は幹事会活動費に含まれているが、別項目と考えてほしい。ここには、山川氏(YMOE社)の日光(の地図修正に関する経費)などである。
山本 山田(晋) 山田 山本 木村	東北	3.JOAとの関係について ●今までの方向性を踏まえ、個人情報の取り扱いについて議論した。その結果、来年度から住所・電話番号の個人情報も集めることが確認された。 資料配布・読み合わせ 今の段階では承認はとらず、皆さんの意識を確認したい。 一JOAとの関係に関しての方向性については特に異論がなかった。 現状として、日本学連には氏名・ふりがな・生年月日・大学を登録していると思う。これらに加えて、来年度からは、住所・電話番号も登録していただくことになると思う。その理由としては、住所・電話番号(の登録)がない状態は正常でないからだ。2010年度まではそれらの情報も集めていたが、今の方向性だと、来年度から再び集めることとして、地区学連への登録をもって、日本学連とJOAへの登録も同時にすることとなる。なお、それらの情報はインカレなどの日本学連主催事業や、公認大会といったJOA主催行事で使われるようになる。 宮城県では、東北大学と宮城学院女子大学は宮城県協会・JOAに加盟しており、(その加盟金は)宮城県協会の予算の大部分を占めている。調整はしていただけるのか。 JOAの中ではそういう方針で行くことになっており、それはJOA総会でも確認されているようだ。JOAの理事の方と県協会が個別に対応していると思う。 学連としてはこのような個人情報の扱いでよいという意見なので、この方向でJOAと詰めていきたい。 JOAに加盟するということはどういうことか、説明するために資料を作ってきたので見てほしい。 資料配布 日本学連のJOA加盟は、インカレの優勝者を大学関係者や一般の皆さんから認めてもらうことを目指すためである。現在学生は大学に帰属している。大学クラブも公認クラブとして大学に帰属しているが、地区学連・日本学連に加盟している。インカレの優勝者が賞状を持って行った場合、それが価値があるかどうかは大学が認めるかどうかにかかっている。大学は日本国から認められたところである一方、日本学連と日本国はつながっていない。JOAはオリエンテーリングを統括する組織として、JOCや日体協に加盟している。日本学連がJOAに加盟するにあたって、日本学連が日本の学生において、オリエンテーリングを統括する唯一の団体であるということを確認してもらいたい。これによって、正規の加盟員となれば、日本国と(間接的に)つながるので、インカレの賞状は日本国が認めたものとなる。さらに、JOAは、IOFに加盟しているのも、そことオフィシャルにつながる。 日本学連は任意団体であり、法人格ではない。日本学連がJOAの会員となり、日本の学生のオリエンテーリングの唯一の統括団体であると認めれば、必然的に日本学連が正当な日本の(学生の)オリエンテーリングの代表者であることと、インカレの優勝者は日本一であることが公式に認められる。
山本 野本 山本 宮川 山本	立教	4. インカレリレー特別措置について ●インカレリレー特別措置は日本学連からインカレ実行委員会へ要請して行われており、今年度もそうすることとなった。 ただ、今年度はインカレへのエントリーが3人未満の大学にのみ混成チームの編成を認めることとなった。 資料配布・読み合わせ (インカレリレー特別措置は)ここ4年ぐらい行われていることであるが、インカレ実施規則には書かれていないことである。学連側から実行委員会にお願いして、この措置が実施されている。 昨年度の場合、筑波大学では、学連登録している女子部員4名全員がインカレに出場したが、よくわからないまま、混成チームが認められた。実力的には混成チームより劣るかもしれないが、単一校で組むことが人数としては可能だったのだが、そういった場合、混成チームは認められるのかどうか、そして、認められるのであれば、それはなぜか、個人的に気になっている。 大学を代表して走るという趣旨にのっとれば、4人いるのならそのうちの3人で正規チームを出す方が、筋が通っている気がする。規則にはないので、私たちが決めたら、そうなる。個人的には、混成チームを認めるべきではないと思う。 立教大学の場合、女子の学連加盟者はいるが、インカレにエントリーする人数は3人に満たない。学連加盟者が3人以上でもこの措置は認められるのか。 それも今から決めたい。考えられる状況として、リレーへのエントリーが3人以上いる場合と、3人以上加盟はしているがリレーには3人以上エントリーしない場合、そして加盟者数が3人未満である場合があると思う。それぞれについて、特別措置を認めるかどうか(考えたい)。

山田	東北	(特別措置を認めるかどうか)は加盟者数ではなく、エントリー数で決めるべきだと思う。実質幽霊部員となっている人もきついていると思うので、実際にエントリーする人が3人未満なのに選手権を走る権利を奪われるのはかわいそうなことである。ただ、エントリー者数が3人以上いて選手権クラスでチームを組めるのに混成チームをつくることは認めない方向でいいと思う。 あと、併設の混成チームは認められているのか。例えば、(1つの大学から)4人のエントリーがあり、3人は選手権クラスで走るが、残りの1人もリレーを走りたいと思った場合、他の大学と混成チームを組むことは可能なのか。
大西 田中	横浜市立	併設クラスはもともと認められている。 エントリー者数が3人以上だった場合、リレーの選手権を走るべきだという意見があったが、もし選手権クラスで到底帰ってこれない1年生がエントリーした場合も同じように考えるのはどうなのか。
杉村 山田(晋) 飯室	早稲田	もしエントリー者数が4人いて、3人が選手権を走り、残りの1人が他の大学と選手権のチームを組むのはありなのか。 選手権に参加しない加盟校等と組むことになっているので、この措置に該当しない。
田中	横浜市立	去年、日本女子大学では1年生が選手権クラスでリレーを完走しているのでは、例年走れているのではないのかと思う。そこに関しては配慮はいらないと思う。
山田(晋)		完走している人はそれなりに大会に参加して、インカレの練習もしたような人だと思うが、実情として、インカレが何回目だという人もいると思う。インカレに出場する人は、決してリレーの選手権を走る(実力のある)人ばかりではないと思う。
小山	お茶の水	オリエンテーリングをするにあたって、遭難などといった、命の危険が常にある。選手権クラスという厳しいコースを走るにあたって、安全にかかわることを重視するのか、学校対抗戦というインカレの部分の部分を大事にするのかという話になると思う。個人的には、その両方を考えなければいけないと思う。
山田(陽)	東北	私も、(混成チームを作るかどうか)は大学が決めることなので、どちらにせよ認めてよいと思う。私だったら、どんなに弱くても、自分の大学で出たいと思うし、エントリーが4・5人いるのに他に組みたい(混成チームを作りた)という大学は少ないだろう。
山田	東北	特別措置はあった方がよいと思う。本当に人数が少ないところが、他と組んでも選手権に出られるということはいいことだと思う。私も、(混成チームを作るかどうか)は大学が決めることなので、どちらにせよ認めてよいと思う。私だったら、どんなに弱くても、自分の大学で出たいと思うし、エントリーが4・5人いるのに他に組みたい(混成チームを作りた)という大学は少ないだろう。
小山	お茶の水	規則は守ってもらうためにあり、特別措置というものがあるにあって、もし速い人と混成チームを組む大学がいくつも出てきた場合、それを認めてしまってもいいのかという問題になる。また、新入生にも実力差があり、新入生という区切りで制限をするのは無理だと思う。もしルールを付けるのであれば、エントリー数3人以上ならその大学で選手権を走り、もし選手権を走るのが無理なら併設を走るという制限を設けるべきである。(混成の)最強チームがいくつもあってよいというのであれば、各大学の判断でいいと思う。
山田(晋)		特別措置には、「大学を代表して」とあるので、3人以上ならば、新入生の有無にかかわらず、自動的にその大学で出してもらうということでは、いいと思う。
山本	東北	混成チームは基本的には(正規チームと)同じコースを走るが、選手権出場チームとしては認められていないので、いくら速くても大学を代表して走るリレー競技とは関係ないと思う。(特別措置は)人数が少ない大学のモチベーションを高めるのにはいいと思う。
山田 新谷	東北	特別措置のメリットは、選手が少ない大学のモチベーションが上がるということであり、それ以上縛る必要はないと思うが、大学を代表して走るといふ意識が混成チームにも働いたら、3人以上エントリーしているのなら選手権を走るべきだと思う。
山田(陽)		実際にクラブの人数が少ない大学の意見も聞きたい。 名古屋大学の女子は、話し合った結果、全員併設を走ることにした。その理由は、新入生が選手権を走る自信がまだないと言ったからである。
宮川	立教	(早稲田大学の女子は)実際に選手権クラスに出ることで、モチベーションが上がった。今年は1年生が入ったので、自分の大学で出たいと思うし、去年入賞したからといって、強い人と組みたいとは思わない。特別措置はあった方がいいし、それを細かく決める必要はないと思う。
村瀬	筑波	今年の後輩が入ったが、インカレ参加者が2人だけなので、今年もこの措置を使いたい。ただ、エントリー者数が3人以上ならば、特別措置を使うことはできないようにすればいいと思う。
山本 村瀬 大久保	筑波 東京	現状として、去年の1年生2人は選手権クラスを走れなかったと思う。完走できるかわからない人に選手権クラスを走ることの意味が見いだせない。大学のチームを出したいという希望はあるが、現状があていない以上、混成チームを出すことを認めてほしい。 3人で一般クラスを走ればよいという話があるがどうか。 選手権に出ることが、大学としての経験にもなるし、次の世代につながると思う。それを切ってしまうのは、厳しいと思う。
野本		昨年度は、女子が1人エントリーし併設を走った。今年は5人に増えたのでどうなるかわからないが、エントリーが3人以上いて選手権に出られるとなっても、2人は1年生となるので、完走が難しいと判断した場合は、この措置が残っているとありがたいと思う。大学単位でチームを出すことを重視した場合、実力が伴っていないのであれば、一般クラスを走ればよいと思う。
戸上	東京工業	インカレには個人戦と団体戦があるので、大学対抗というのに大きな意味があると思う。本当は自分たちで(正規チームを)組みたいが組めない大学の特別措置であり、3人以上であれば、自分の大学でチームを組むのが筋だと思う。
新谷 山田(晋) 飯室 山本 山田 山本 山本	早稲田 東北	特別措置は、組もうとする大学がともにエントリー数が3人未満でないといけなければ、いいと思う。 ともにエントリー数が3人未満でないといけない。 この特別措置を行うのはインカレ実行委員会にとっては労力がかかり、すごく面倒くさいという話である。 (エントリー数の制限を)上級生3人未満とする必要があるのではないのか。 上級生にもインカレ出場が初めての人がいるので、分ける必要はないと思う。 分けるとするならば、大学に判断をゆだねるか、それとも3人以上のエントリーでダメとするかではないのか。 規則を緩くすることは、大学の判断にゆだねるということだ。 今までの話の流れから、加盟者数3人以上・エントリー数3人未満の場合は(この特別措置を適用できる方向で)よいか。 →異論がなかったため、認められた。 →エントリー3人以上の場合の特別措置の適用については、認めないこととなった。(賛成9反対20)
木村		5. インカレ実施規則第25条ウォーミングアップエリアについて ●規則の変更を予定していたが、規則の精神にのっとっていないとして、議題自体が取り下げられた。
山本 木村		資料配布・読み合わせ この規則の意味は、「実行委員会は、選手とチームオフィシャル以外が入れないような、ウォーミングアップに専念できる場所を作りなさい」ということである。
大西 山本 木村		この規則はすべてのインカレに適用されるが、リレーの時はどうなるのか。リレーの時は会場とウォーミングアップは兼ねている。個々の案件については、イベントアドバイザーが判断する。本来ならば、選手権クラスは練習場のような場所を用意するものであり、用意できない場合は特例として断らなければならない。
山本		なぜ変えることになったのか。 現実に合わせてしようとしたためである。将来への提言として、イベントアドバイザーから言われていることである。 この規約の精神は、ベストな状態で競技ができるように、そんな環境を用意してほしいという、日本学連からインカレ実行委員会への注文書である。運営規則は、運営者と競技者の約束事であり、学生側からは絶対守ってほしいことを発議すればいいし、運営側からは絶対にできないことを出せばいい。必ずしも100%実施規則に沿って運営できるわけではないので、個別の案件については、ケースバイケースで対応していけばいい。 この規約の意味を理解していなかった部分があった。個人的には、残しておきたいと思う。幹事会での議論が不十分だったということで、今回は取り下げたい。
		6. パンチングシステムに関する細則について ●パンチングシステムに関する細則の破棄・変更の承認がされた。
		資料配布・読み合わせ

飯室	早稲田	細則のみを変更するという案はなかったのか。もう少し緩くするなどといったことは行わないのか。例えば、第4条(第1項)には、「電子コントロールカードには、バックアップラベルが主管者によって提供される。」とあり、大会に関して細かく定められた部分があり、これをすべて廃止してしまうのは、もったいないと思う。					
山本		ただ、パンチングシステムは、今はSIが出てきたが、これからいろんな形のものが出てくる可能性がある。この規則が制定された当時、すでにSIはあったが、信頼性がなかったため、競技の質を保つために、(規則で)縛ろうとしたようだ。今では、そのようにしなくても競技の質は保てる。また、第4条には、バックアップラベルに関する記述があるが、SIIにはそれはない。そこで、第5条にSIと付け加えても、違うパンチングシステムが出てきたら対応できない。そうならば、ここに関しては主管者に任せていいと思う。 →この細則の破棄・変更については、賛成多数により承認された。(賛成25反対3)					
山本		7.インカレスプリント実験大会について ●スプリントを取り巻く世界情勢を踏まえ、インカレスプリント実験大会の実施について議論した。その結果、提案通り、実験大会をインカレミドル前日モデルイベントと同時開催することとなった。 資料配布・読み合わせ 簡単に言うと、インカレスプリント実験大会を開催したいということである。世界では、スプリントが重視されていて、近年その傾向は増している。日本もそれに追従しなければならない。(山川氏としては)ゆくゆくはインカレスプリントを実施したいが、とりあえず実験大会として、インカレミドル前日のモデルイベントの際に、ウィニング12分程度のレースを一本したい。その意向をインカレ実行委員会に伝えたいところ、学生に認められたのならよい、とのことだった。 幹事会としては、世界の実情を考えると、地図製作にお金がかかるが、しないと決めた場合、来年以降はその決定が前例となってそれが開催しにくくなるので、少なくとも実験大会をするのはいいのではないかと話となった。 実際に実験大会を開いた場合、その分、モデルイベントの時間が少し短くなる。ゆくゆくは予選・決勝方式で行いたが、実験大会では自薦と運営者からの推薦のあった選手何人かに走ってもらい、それをみんなで観戦する形となる。インカレミドルの前日なので、調整に影響があると考えられる選手には出場の強制はしない。スプリント特有の変則的なルールを想定し、あらかじめ観客にそれが公開されることで、より楽しいものになると思う。 →特に反対意見がなかったため、日本学連としては、インカレ実行委員会に対してインカレスプリント実験大会の開催を要請することとなった。					
木村	山本	日本学連が主催するのか。また予算はどこで組むのか。 日本学連の主催で、インカレとは別会計である。					
山本		8.春インカレについて報告 ●春インカレ実行委員会からの報告について確認した。 資料配布・読み合わせ この資料は第2回幹事会資料として、春インカレ実行委員会から送られてきたものである。なお、この議題については報告のみとなる。					
木村		9.理事会報告 ●理事会の活動と来年度のインカレロングについての進捗状況について報告があった。 今年度春インカレのイベントアドバイザーとシード選手、秋インカレの裁定委員の選出をした。 また、来年度の秋インカレの準備をした。今のところ、福井県で今年のインカレと同じ開催時期で行う方向で考えているが、(正式)決定していない。					
大西		10.技術委員会報告 ●技術委員会の活動として、学連合宿と地図講習会の開催について報告があった。 資料配布・読み合わせ 技術委員会は、学生の技術アップや、インカレ関係の伝統を守るためにある。基本的な活動は年2回の学連合宿である。今年度は、全日本リレーの前日に都内で地図調査についての初歩的な部分についての講習会を計画している。全日本リレーに参加する人は、ぜひ参加してほしい。また、ユニバー2014はチェコで行われる。 学連合宿は9月21～23日に富士で開催し、今年はあと2回開催する予定である。2回目は三重県の青山高原・東青山、3回目は山リハリレーの前後に関東で行う予定である。最近では1回生の参加が増えている。ぜひ参加してほしい。 あと、インカレのシード選手の推薦や、ミドルの枠の計算を行っている。					
山田(陽)	平野(大)	高橋	山田(晋)	杉村	平野(弘)	山田(晋)	11.各部局活動報告 ●会計：加盟金・賛助金・インカレミドル・リレーの返金確認 ●事業部：第1回・第2回幹事会と第1回総会のとりまとめ、各加盟校渉外へのアンケート実施 ●広報部：日本学連メーリス管理、幹事会議事録・広報紙「いぶき」の発行 ●事務局：加盟申請・地図販売・後援申請・賛助会員の受付 ●普及部：賛助会員募集(東大大会・東北大大会)、賛助会員への「いぶき」の発行のお知らせ ●渉外部：矢板地区・日光所野地区トレイン利用についての区長・自治会長へのあいさつ回り 加盟申請の追加登録は12月31日が締め切りとなっている。遅れることのないようにしてほしい。
千葉	高嶋	佐藤	川上	宇井			12.各地区学連活動報告 ●北東学連：第36回東北大学大会(9月15日)、第35回北海道大学大会(9月29日)、ミドルセレクション・北東学連総会・機関紙発行(10月27日) ●北信越学連：総会(これまでに3回開催)、交流会(7月14日)、合同合宿(8月24～26日)、ミドルセレ(千葉大東工大大会・関東学連ミドルセレ) ●関東学連：関東学連規約改正(下記参照)、関東学連ロングセレ・関東インカレ個人戦(6月23日)、関東学連総会(4月3日・5月25日・6月6日)、関東学連新人戦(9月29日)、ミドルセレ(12月8日・日光所野・北信越学連と合同) ●東海学連：東海インカレ兼ロングセレ(6月30日)、東海学連合宿・総会(8月31日～9月1日)、東海学連冬合宿(12月21日～23日)、東海学連ミドルセレ・東海学連総会(12月22日) ●関西学連：学連練習会・総会(4月27日)、第1回定例会(5月12日)、新歓合宿(5月25～26日)、ロングセレ・第2回総会(6月16日)第2回定例会(10月27日)、ミドルセレ・第3回総会(11月24日) 資料配布(関東学連規約改正について)

佐藤	<p>3回の関東学連総会で、関東学連規約を改正したので、日本学連規約第6条にのっとり、日本学連総会の承認を得るため、ここに報告する。変更点は資料の赤字の箇所である。第5条「推薦立候補の判断の形態」を、関東学連総会から技術委員会へ変更した。理由は、学生の推薦を学生が行うのは、個人的な感情が入りこみ不公平なことがあるからである。第5条の変更により、第6条「委任状による投票」は削除された。また、Aエリート通過基準は、あいまいな基準だったため、変更後は事実が証明できるものを基準とした。Bエリート通過基準については、第9条第2項「未出走の理由および不通過の理由の基準」を削除した。(削除した理由は)Bエリートに関しては、競技的実績で十分ではないのかという結論になったためである。第8条・第9条はこのままでよいと思うが、第5条はまだうまくまとまっていないのでもう少し議論をしたい。第5条がまとまったら、次回総会で承認にかけたい。</p>
山本	<p>13.次回総会について <次回総会> ●開催日：3月10日(土) (インカレリレー翌日) ●開催地：インカレリレー開催地の近く</p>
	<p>総会終了:17時02分</p>